

## 2 生産資材価格の上昇による影響

平成 17 年を基準にした農水省の「農業物価指数」を利用して現在（平成 20 年）の作物及び畜種別所得を試算した結果、特に重油を大量に消費する施設園芸のキュウリ、トマト、ピーマンで減少率が大きく 14～27%となる。露地野菜であるレタス、ハクサイ、ネギ、ナス等では施設園芸より減少率は小さい。普通作では減少率に幅があり、水稻 15%、小麦 55%、大豆 25%となる。畜産は購入飼料費の高騰により減少率は野菜や普通作と比べ非常に大きく、乳牛 42%、肥育豚 92%、肥育牛 69%となる。

表 -2-1 は農水省の「農業物価指数」であり、この指数を利用して平成 20 年産の作物・畜種別の農業所得を試算したものが表 -2-2、表 -2-4、表 -2-7 である。表 -2-1 から明らかなことは以下のとおりである。

光熱動力の上昇率が約 58%と非常に高い。  
飼料、肥料共に上昇率が約 40%と高い。  
諸材料の上昇は約 6%である。  
種苗、農業薬剤は微増である。

表 -2-1 農業物価指数

科目	指数(H20.7現在)
種苗・苗木	101.6
肥料	141.0
農業薬剤	100.2
諸材料	106.5
光熱動力	158.6
飼料	140.6

H17の指数を100とする

以上のことから、光熱動力費、肥料費、飼料費が上昇しており経営を圧迫していることが想定される。

所得の試算及び経営費に占める割合について

### 【 野菜 】

表 -2-2 は茨城県農林水産統計年報（平成 17 年～18 年）の野菜の品目別経営統計データを利用して、平成 20 年産の主要野菜の農業所得を試算したものである。また、表中には高騰している肥料、諸材料、光熱動力費の合計金額及び経営費に占める割合もあわせて示した。表 -2-3 には経営費及びその内訳（肥料・諸材料・光熱動力費・その他）の金額を示している。

表 -2-2 及び表 -2-3 から明らかなことは、

キュウリ、トマト、ピーマンの施設野菜の所得の減少率は 14%～27%である。この原因は高騰する肥料、諸材料、光熱動力費の経営費に占める割合が約 40%と高いことにある。メロンはパイプハウスで栽培しているが重油を消費しないため光熱動力費が 22,000 円と施設野菜のピーマンと比べて約 4.6%と非常に低い。そのため、施設野菜と比較すると所得の減少率は小さい。

露地野菜は肥料・諸材料・光熱動力費の経営費に占める割合がレタスを除き約 30%以下と小さいことにより、施設野菜と比べ所得の減少率が 13%以下と小さい。

表 -2-2 野菜の所得(試算)と肥料・諸材料・光熱動力の合計金額及び経営費に占める割合

区分	作物	所得金額(千円/10a)			肥料、諸材料、光熱動力の合計額 及び経営費に占める割合(H17)	
		H17(実績)	H20(試算)	対比	金額(千円)	割合
施設	キュウリ施設(冬春)	1,361	1,173	86%	382	41%
	大玉トマト施設(冬春)	1,330	1,090	82%	543	39%
	ピーマン施設(冬春)	1,305	955	73%	691	38%
	メロン施設	407	360	88%	116	23%
露地	レタス露地(春)	271	252	93%	66	36%
	はくさい露地(秋冬)	110	96	87%	39	23%
	白ねぎ露地(夏)	299	272	91%	68	29%
	かんしょ(年産)	237	225	95%	30	19%
	ばれいしょ(年産)	61	55	91%	13	15%
	にんじん露地(冬)	126	110	88%	35	21%
	キャベツ露地(春)	122	111	91%	26	30%
	なす露地(夏秋)	1,103	1,051	95%	154	23%

対比はH20(試算)の所得金額をH17(実績)で除した割合である

光熱動力費の中でも重油の物価指数は 204.9 と高いため、重油使用量が多い施設園芸では、試算よりも経営収支が悪化していると想定される。

表 -2-3 野菜の経営費及び肥料・諸材料・光熱動力費・その他の金額

区分	作物	経営費	経営費の内訳(H17)(千円/10a)			
			肥料費	諸材料費	光熱動力費	その他
施設	キュウリ施設(冬春)	926	104	38	240	544
	大玉トマト施設(冬春)	1,376	144	104	295	833
	ピーマン施設(冬春)	1,836	165	51	475	1,145
	メロン施設	502	78	16	22	386
露地	レタス露地(春)	185	22	30	14	119
	はくさい露地(秋冬)	168	20	10	9	129
	白ねぎ露地(夏)	233	50	9	9	165
	かんしょ(年産)	156	11	7	12	126
	ばれいしょ(年産)	88	8	2	3	75
	にんじん露地(冬)	164	23	2	10	129
	キャベツ露地(春)	87	18	2	6	61
	なす露地(夏秋)	681	91	44	19	527

【 普通作 】

一方、普通作では表 -2-4 のとおり所得減少率は 15～55%と作物により幅がある。特に小麦は H17 の所得 5,267 円から 2,876 円低下して H20 には 2,391 円に約半減した。表 -2-5 には科目別に H17 と H20 の金額が示されており、小麦の所得低下額 2,876 円の内訳は肥料費 1,920 円 (H17)6,602 (H20)4,682) と光熱動力費 909 円 (H17)1,552 (H20)2,461) の両者でほぼ占められている。

表 -2-4 普通作の所得(試算)と肥料・諸材料・光熱動力の合計額及び経営費、経営費に占める割合

区分	作物	所得金額(円/10㍻)			肥料、諸材料、光熱動力の合計額及び経営費、経営費に占める割合(H17)		
		H17(実績)	H20(試算)	対比	金額(円)	経営費(円)	割合
普通作	水稻	30,513	26,031	85%	11,721	81,657	14%
	小麦	5,267	2,391	45%	6,238	31,468	19%
	大豆	9,376	7,044	75%	4,948	22,125	22%

対比はH20(試算)の所得金額をH17(実績)で除した割合である

割合は肥料、諸材料、光熱動力の合計額を経営費で除した割合である

表 -2-5 普通作の種苗・肥料・農薬・諸材料・光熱動力費の金額及び経費増加費

区分	科目別の金額(H17)(円/10㍻)					
科目	種苗費		肥料費		農薬費	
年度	H17(実績)	H20(試算)	H17(実績)	H20(試算)	H17(実績)	H20(試算)
水稻	2,394	2,432	5,613	7,914	4,003	4,011
小麦	2,769	2,813	4,682	6,602	1,287	1,290
大豆	1,626	1,652	3,274	4,616	2,591	2,596
	諸材料費		光熱動力費		経費増加額( ~ )	
	H17(実績)	H20(試算)	H17(実績)	H20(試算)	H17	H20
	2,773	2,953	3,335	5,289		4,482
	4	4	1,552	2,461		2,876
	43	46	1,631	2,587		2,332

### 【畜産】

畜産で特徴的なことは表 -2-6 に示されているとおり、経営費に占める飼料(購入)・光熱動力・諸材料の合計金額が非常に高く乳牛 60%、肥育豚 76%である。それに対して肥育牛は 29%と極端に低いのは、経営費の中で大きな割合を占める素畜費(H17 金額 502,456 円、割合 60.8%)が含まれていないためである。

畜産では高騰する飼料費等が経営費を大きく引き上げており、H17 対比で乳牛 58%、肥育豚 8%、肥育牛 31%と所得が大幅に減少した。特に肥育豚の所得の減少率は 92%、金額で 7,238 円と大きい。その要因は表 -2-7 に示されているとおり飼料費(購入)が 16,351 円から 6,638 円増の 22,989 円へ大幅に増加したためである。

試算結果のとおり飼料の高騰は畜産経営にとって大きなダメージを与えているが、トウモロコシを主原料とする配合飼料価格の上昇に対する緩和措置として配合飼料価格安定制度が確立されており、飼料代の農家実質負担額を軽減している。畜産の所得試算では配合飼料の補てん金を加味していないため、利活用には留意する必要がある。

表 -2-6 畜産の所得(試算)と飼料(購入)・光熱動力・諸材料の合計額及び経営費、経営費に占める割合

	作物	所得金額(H17)(円/頭)			飼料(購入)、光熱動力、諸材料の合計額及び経営費、経営費に占める割合(H17)		
		H17(実績)	H20(試算)	対比	金額(円/頭)	経営費(円/頭)	割合
畜産	乳牛	277,392	161,424	58%	295,092	491,768	60%
	肥育豚	7,900	662	8%	17,379	22,690	76%
	肥育牛	146,189	45,267	31%	244,961	826,147	29%

対比はH20(試算)の所得金額をH17(実績)で除した割合である

割合は肥料、諸材料、光熱動力の合計額を経営費で除した割合である

肥育牛の経営費826,147円のうち素畜費は502,457円である。

表 -2-7 畜産の飼料(購入)・光熱動力・諸材料費の金額及び経費増加額

作物	科目別の金額(H17)(円/頭)						経費増加額	
	飼料費(購入)		諸材料費		光熱動力費		(円/頭)	
	H17(実績)	H20(試算)	H17(実績)	H20(試算)	H17(実績)	H20(試算)	H17	H20
乳牛	277,931	390,770	2,635	2,806	14,526	23,038	121,522	
肥育豚	16,351	22,989	3	3	1,025	1,625	7,238	
肥育牛	236,686	332,780	38	40	8,237	13,063	100,922	

経費増加額とは、飼料(購入)・光熱動力・諸材料費の合計額である